



川中島古戦場史跡公園

5度にわたって繰り広げられた武田信玄と上杉謙信の川中島の戦いの中で、永禄4年(1561)9月10日の第4次の戦いの舞台になったのが八幡原。ここでの戦いが最も激しく、武田方の副将・武田典厩信繁、山本勘助ら多くの将兵が戦死した。現在は公園を囲むように桜が植えられ、芝生公園や池などが整備。市民の憩いの場となっている。

決戦/地ニ立ツ

「川中島の戦い」とは、信濃北部で繰り広げられた越後・上杉謙信、甲斐・武田信玄、そして北信濃の人々を軸とした戦いの総称。通説では天文22年(1553)から永禄7年(1564)までの12年間に5度の戦いが行われたといわれている。5度の戦いの中で、第4次とされる永禄4年9月10日の戦いは、千曲川と犀川にはさまれた川中島一帯で行われ、信玄・謙信の一騎討ちなど、多くの伝説を残した激戦であった。



八幡社

史跡公園の松林には勝運八幡大神と称えられる菅田別尊(ほんだわけのみこと)、建御名方命(たけみかたのみこと)の2柱のご祭神を祀る八幡社が静かにたたずむ。武田信玄本陣土塁の跡(升形陣営)のなごりがある境内地には、信玄・謙信一騎討ちの銅像や、三太刀七太刀之跡の碑、甲越直戦地の碑などがある。



信玄・謙信 一騎討ちの銅像

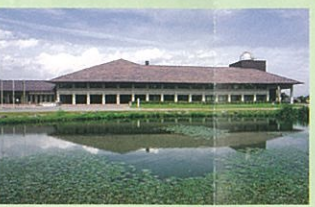
永禄4年の第4次の戦いで、謙信の太刀を信玄が軍配で受け止めたという伝説に基づき一騎討ちの銅像。建立は昭和44年(1969)11月。NHK大河ドラマ『天と地と』海音寺潮五郎(原作)の放送記念として建てられた。作者は後藤光行。

永禄4年の合戦の折り、上杉謙信が単騎武田信玄本陣に切り込み、馬上から信玄目掛けて三度にわたって斬りつけた。信玄はその太刀を軍配団扇で受け止めた。軍配には7ヶ所(甲陽軍鑑では8ヶ所)の刀傷が残っていたと伝えられる。当時の記録には謙信が「自身太刀打ちに及んだ」と書いてあり、激戦だったことを伝えている。



三太刀 七太刀之跡の碑

- 開館時間/9:00~16:30(入館は16:00まで)
- 休館日/月曜日、祝・休日の翌日、7月第2週(月~金曜)、年末年始
- 料金/一般300円(240円)、高校生150円(120円)、小中生100円(80円) ()は団体20名以上
- プラネタリウムも併設(土・日・祝日投影)



長野市立博物館 昭和56年9月23日に開館。「長野盆地の歴史と生活」を主なテーマに年代順に設けられた順路をたどって長野盆地の成り立ちや稲作のムラ、善光寺とその信仰、川中島の戦い、村のくらしなどを展示。

川中島古戦場 周辺

松代城跡(海津城) 永禄3年(1560)頃、武田信玄が北信濃支配の拠点として築いた城。昭和56年国史跡指定。

典厩寺

永禄4年の戦いで戦死した信玄の弟、武田信繁の墓がある。日本一の大きさを誇る高さ5.5mの閻魔大王像が川中島に散った武田・上杉両軍6千余名を供養している。(境内には寺宝60余点を展示する川中島合戦記念館もある。) ※無料駐車場あり(☎026-292-3335) ※拝観料200円



山本勘助の墓

山本勘助の墓は、ここより南の字高畑にあったが、千曲川による荒廃から、かつての広瀬の渡しに建つ旧信州柴阿弥陀堂境内に墓碑が建てられ、現在に至っている。



胴合橋(ごあいばし)

敵に討ち取られた山本勘助(武田信繁との説もあり)の首を奪い返し、胴体とをつなぎ合わせた場所と伝えられる橋。旧ドライブインおぎのや旧信州そば蔵駐車場敷地内



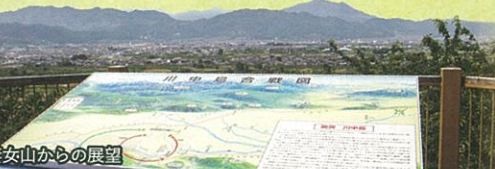
勘助宮跡地

山本勘助は諏訪社(勘助宮)跡地付近で討ち死にしたといわれている。



妻女山

永禄4年(1561)の第4次川中島の戦いの際の上杉軍の陣所。眼下には武田軍の拠点、海津城を見下ろし動きをにらんでいた。



妻女山からの展望